

- 11) Iwanaga M, Soda M, "Time Trend and Age-Period-Cohort Effects on the Incidence of Patients with Adult T-Cell Leukemia in a Population-Based Study in Japan, 1991-2010", The 56th ASH Annual Meeting and Exposition (December 6-9, 2014) in San Francisco, U.S.A., Poster II. Dec. 7, 2014
- 12) Ichii M, Fujita N, Maeda T, Okuzaki D, Sekine Y, Kon S, Muromoro R, Oritani K, Matsuda T, Kanakura Y. The role of Signal-Transducing Adaptor Protein-2 in early T lymphopoiesis in thymus. The American Society of Hematology 56th Annual Meeting (2014.12.6-9, Moscone Center, San Francisco, CA, USA, Burns LJ) (発表日12.9) (Oral)
- 13) Okayama A, Iwanaga M, Sagara Y, Hidaka T, Umekita K, Nakano K, Watanabe T, Yamano Y, Horai Y, Nakamura H, Kawakami A, "Human T-Lymphotropic Virus Type 1 Biomarkers in Patients with Rheumatoid Arthritis", ACR/ARHP Annual Meeting, Boston, U.S.A., Nov 18th, 2014 (Poster)
- 14) Okayama A. HTLV-1 infection and associated diseases. Seminar in Department of Immunology and Infectious Diseases, HSPH. Boston U.S.A., 2014.
- 15) Ishigaki T, Uchimarui K et al, "Comprehensive Analysis of Surface Antigens on Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma (ATL) Cells and Search for ATL-Initiating Cell Markers", The 56th ASH Annual Meeting and Exposition. San Francisco, CA, 2014.
- 16) Tsukasaki K : Development of Anti-CCR4 Antibody for ATL and its Activity for Treg Inhibition. Session, 32nd World Congress of Internal Medicine, 2014. Seoul Oct.24-28, 2014.
- 17) Iwatsuki K. Current Japanese guidelines of therapy for cutaneous lymphomas. 3<sup>rd</sup> Eastern Asia Dermatology Congress, Jeju, Korea, Sep 24-26, 2014
- 18) M. Moriuchi, H. Moriuchi, "Follow-up Study on Children Born to Human T-cell Leukemia Virus Type I Carrier Mothers in Nagasaki, Japan", the 54th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy, Washington DC, USA, Sep. 5-9, 2014
- 19) Fujita J, Ezoe S, Nagate Y, Nishikawa H, Sakaguchi S, Oritani K, Kanakura Y. Population of leukemic cells in patients with adult Tcell leukemia (ATL). The 5th JSH International Symposium 2014 (2014.5.24-25, ACT CITY Hamamatsu Congress Center, Japan, Ohnishi I) (発表日 5.24) (Poster)
- 20) Ishihara M, Araya N, Sato T, Fujii R, Tatsuguchi A, Saichi N, Nakagawa H, Yamano Y, Ueda K. Quantitative membrane proteome profiling to discover therapeutic targets for adult T-cell leukemia (ATL). AACR Annual Meeting 2014, 5-9 April, 2014, San Diego, USA.
- (国内学会)
- 1) 堀真琴、藤川大、中川翔太、田中勇悦、中野和民、渡邊俊樹、山岸誠、「成人 T 細胞白血病における EZH2 依存的エピジェネティック異常の包括的解析」、第 37 回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 11 月 25 日 (2014 年 11 月 25 日～27 日) (ポスター)
- 2) Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Osvany Lopez, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, Toshiki Watanabe, "Monitoring clonal composition of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites", 第 37 回日本分子生物学会年会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 11 月 27 日 (2014 年 11 月 25 日～27 日) (ポスター)
- 3) 梅木一美, 橋倉悠輝, 山本成郎, 岡山昭彦. HTLV-1 抗体確認試験としての Line Immunoassay の有用性. 第 61 回日本臨床検査医学会学術集会.福岡国際会議場, 2014. 11.22～25
- 4) 相良康子、井上由紀子、守田麻衣子、後藤信代、岩永正子、矢持忠徳、渡邊俊樹、浜口功、相良康弘、清川博之、「HTLV-1 PVL と HLA Class I 結合 peptide の乖離時

- 間との関連」、第 62 回日本ウイルス学会  
 学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014  
 年 11 月 11 日 (2014 年 11 月 10 日～12 日)  
 (一般口演)
- 5) Nakashima M, Yamochi T, Higashihara M,  
Watanabe T, Horie R, “CD30 expressing  
 cells in HTLV-1 carriers reveal abnormal  
 nuclear morphology resembling flower cells”,  
 第 76 回日本血液学会学術集会、大阪国際  
 会議場、大阪、2014 年 11 月 1 日 (2014  
 年 10 月 31 日～11 月 2 日) (一般口演)
- 6) 野坂生郷、岩永正子、石澤賢一、石田陽  
 治、内丸薫、石塚賢治、天野正宏、石田  
 高司、今泉芳孝、鶴池直邦、宇都宮典、  
 大島孝一、河井一浩、田中淳司、戸倉新  
 樹、飛内賢正、渡邊俊樹、塚崎邦弘、「全  
 国医療機関における成人 T 細胞白血病・  
 リンパ腫(ATL)患者の実態調査：2010 年  
 ～2011 年」、第 76 回日本血液学会学術  
 集会、大阪国際会議場、大阪、2014 年 11  
 月 1 日 (2014 年 10 月 31 日～11 月 2 日)  
 (一般口演)
- 7) Yamagishi M, Takahashi R, Sakai N,  
 Fujikawa D, Nakagawa S, Yamochi T,  
 Yamochi T, Nakano K, Uchimaru K,  
 Utsunomiya A, Watanabe T, “Tumor-specific  
 gene expression leads to p38 and Hedgehog  
 signaling activation in adult T cell leukemia”,  
 第 76 回日本血液学会学術集会、大阪国際  
 会議場、大阪、2014 年 11 月 1 日 (2014  
 年 10 月 31 日～11 月 2 日) (一般口演)
- 8) Nagata Y, Enami T, Sakata-Yanagimoto M,  
 Kataoka K, Kitanaka A, Sato A, Shiraishi Y,  
 Chiba K, Tanaka H, Shiozawa Y, Yoshizato T,  
 Kon A, Yoshida K, Sanada M, Ishiyama K,  
 Miyawaki S, Ishii R, Nureki O, Miyano S,  
 Shimoda K, Watanabe T, Chiba S, Ogawa S,  
 “Distinct patterns of RHOA mutations in  
 Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma and  
 peripheral T-Cell lymphomas”, 第 76 回日  
 本血液学会学術集会、大阪国際会議場、  
 大阪、2014 年 11 月 1 日 (2014 年 10 月  
 31 日～11 月 2 日) (一般口演)
- 9) Kataoka K, Nagata Y, Kitanaka A,  
 Sato-Otsubo A, Totoki Y, Yasunaga J, Sanada  
 M, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Suzuki H,  
 Sato Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kon A,  
 Yoshida K, Munakata W, Nakamura H,  
 Hama N, Shide K, Kubuki Y, Hidaka T,  
 Kameda T, Ishiyama K, Miyawaki S, Ishii R,  
 Nureki O, Nagae G, Aburatani H, Miyano S,  
Watanabe T, Matsuoka M, Shibata T,  
 Shimoda K, Ogawa S, “Landscape of genetic  
 alterations in adult T-cell  
 leukemia/lymphoma”, 第 76 回日本血液学  
 会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014  
 年 11 月 1 日 (2014 年 10 月 31 日～11 月  
 2 日) (一般口演)
- 10) 上田 裕二郎, 高橋 明子, 浦崎 哲也, 山  
 田 遥子, 和泉 宏昌, 横山 雄章, 石井  
 源一郎, 湯浅 博美, 根津 雅彦, 伊藤 國  
 明, 塚崎 邦弘 : R-CHOP療法後の二次性  
 MDSに免疫学的血小板減少性紫斑病を  
 併発しステロイド/リツキシマブ療法が  
 奏効した一例. 第76回日本血液学会学術  
 集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10  
 月31日～11月2日 (ポスター)
- 11) Takata K, Yamaguchi M, Yoshino T, Ishizuka  
 N, Oguchi M, Kobayashi Y, Isobe Y,  
 Ishizawa K, Kubota N, Itou K, Usui N,  
 Miyazaki K, Utsumi K, Masaki Y, Nosaka K,  
 Fukushima N, Ohmachi K, Shimada K,  
 Morimoto H, Oshimi K, Kinoshita T,  
Tsukasaki K, Tobinai K : Prognostic  
 biomarkers in patients with localized  
 NK/T-cell lymphoma treated with RT-DeVIC,  
 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際  
 会議場、大阪、2014年10月31日～11月2  
 日 (口演)
- 12) 石垣知寛、小林誠一郎、大野伸広、大田  
 泰徳、渡辺信和、東條有伸、中内啓光、  
内丸 薫間質依存性増殖を示す新規急性  
 型ATL細胞株の樹立と in vivo 増殖モデ  
 ルの解析. 第76回日本血液学会学術集会、  
 大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日  
 ～11月2日
- 13) Jo N, Ohno N, Takeda R, Nakamura S,  
 Hirano M, Takei S, Kawamata T,  
 Yokoyama K, Fukuyama T, Yuji K,  
Uchimaru K and Tojo A. ESHAP regimen as

- salvage therapy for patients with relapsed or refractory adult T cell leukemia. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日～11月2日
- 14) Kawamata T, Ohno N, Sato K, Kobayashi M, Jo N, Yuji K, Tanosaki R, Yamano Y, Uchimar K and Tojo A. Differential diagnosis of by flowcytometric analysis of post allo-SCT myelopathy; a case report. 第76回日本血液学会学術集会、大阪国際会議場、大阪、2014年10月31日～11月2日
- 15) 永田安伸、榎並輝和、坂田(柳元)麻実子、片岡圭亮、北中明、佐藤亜以子、白石友一、眞田昌、宮野悟、下田和哉、渡邊俊樹、千葉滋、小川誠司、「成人 T 細胞白血病/リンパ腫と他の末梢性 T 細胞性腫瘍における RHOA の特徴的な変異分布と生物学的機能の解析」、第 73 回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 9 月 26 日 (2014 年 9 月 25 日～27 日) (口演)
- 16) 渡邊俊樹、山岸誠、「ATL 発症の基盤となるゲノム・エピゲノム異常の解析」、シンポジウム: 16. ATL 発がん機構と治療の新展開、第 73 回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 9 月 25 日 (2014 年 9 月 25 日～27 日) (招待口演)
- 17) 片岡圭亮、永田安伸、北中明、佐藤亜以子、十時康、安永純一朗、油谷浩幸、宮野悟、渡邊俊樹、松岡雅雄、柴田龍弘、下田和哉、小川誠司、「成人 T 細胞白血病/リンパ腫におけるゲノム異常の網羅的解析」、シンポジウム: 16. ATL 発がん機構と治療の新展開、第 73 回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 9 月 25 日 (2014 年 9 月 25 日～27 日) (シンポジウム口演)
- 18) 藤川大、山岸誠、中川翔太、黒川直也、副島あい、石田尚臣、田中勇悦、中野和民、渡邊俊樹、「ATL 細胞における EZH2 依存的エピジェネティック異常の包括的解析」、第 73 回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 9 月 25 日 (2014 年 9 月 25 日～27 日) (ポスター)
- 19) 矢持忠徳、守田陽平、矢持淑子、Sanaz Firouzi、佐々木陽介、渡辺信和、内丸薫、宇都宮與、渡邊俊樹、「Putative ATL tumor initiating cells の解析」、第 73 回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 9 月 25 日 (2014 年 9 月 25 日～27 日) (ポスター)
- 20) Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Yosvany López, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, Toshiki Watanabe, “A new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites”, 第 73 回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014 年 9 月 25 日 (2014 年 9 月 25 日～27 日) (ポスター)
- 21) Ishigaki T, Kobayashi S, Nakano N, Utsunomiya A, Uchimar K, Tojo A. Hierarchical clustering analysis of surface antigens on ATL cells and search for AT-initiating cell marker. 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日～27日.
- 22) Yoshida N, Tsuzuki S, Karube K, Takahara T, Katayama M, Nishikori M, Shimoyama M, Tsukasaki K, Oshima K, Seto M: Identification of STX11 as a tumor suppressor gene in peripheral T-cell lymphomas. 第73回日本癌学会学術総会、横浜、2014年9月25日～27日。(英語口演)
- 23) 古田裕幸、根津雅彦、松井礼子、上田裕二郎、浦崎哲也、岡村直香、横山雄章、和泉宏晶、山田遥子、湯浅博美、伊藤國明、塚崎邦弘、齊藤信一郎:ステロイド先行使用のリツキシマブ輸注反応に対する有用性の検討. 第73回日本癌学会学術総会、パシフィコ横浜、横浜、2014年9月25日 (2014年9月25日～27日) (口演)
- 24) 多田まや子、平田誠、佐々木光穂、樋野村亜希子、前畑みどり、高橋一朗、増井徹、山野嘉久、吉良潤一、米田悦啓、坂手龍一. 難病研究資源バンクにおける収集試料の HLA タイピング実施による難病研究の推進. 第23回日本組織適合性学会大会、2014年9月13日～15日、長崎県(長崎市) .

- 25) 余郷麻希子, 大本周作, 向井泰司, 安部宏, 相澤良夫, 高橋利幸, 山野嘉久, 鈴木正彦. 慢性 C 型肝炎に対するインターフェロン療法後に、抗アクアポリン 4 抗体及び抗 HTLV-1 抗体陽性の脊髄長大病変を呈した 49 歳女性例. 第 210 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 2014 年 9 月 6 日, 東京都 (千代田区) .
- 26) 佐藤知雄, 新谷奈津美, 安藤仁, 山内淳司, 國友康夫, 高橋克典, 斎藤祐美, 石川美穂, 八木下尚子, 山野嘉久. HAM における Th1 様異常 T 細胞の発生機構および病態への関与, 第 19 回日本神経感染症学会総会学術集会・第 26 回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会, 2014 年 9 月 4 日~6 日, 石川県 (金沢市) .
- 27) 山内淳司, 新谷奈津美, 安藤仁, Ariella Coler-Reilly, 國友康夫, 高橋克典, 八木下尚子, 佐藤知雄, 宇都宮與, 山野嘉久. HAM における抗 CCR4 抗体療法の有用性および CCR4+CD8+T 細胞の異常に関する検討. 第 19 回日本神経感染症学会総会学術集会・第 26 回日本神経免疫学会学術集会合同学術集会, 2014 年 9 月 4 日~6 日, 石川県 (金沢市) .
- 28) 藤川大, 山岸誠, 黒川直也, 副島あい, 中川翔太, 石田尚臣, 田中勇悦, 中野和民, 渡邊俊樹, 「ATL 細胞における EZH2 依存的エピジェネティック異常の包括的解析」, 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 24 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (口演)
- 29) 佐竹正博, 相良康子, 岩永正子, 浜口功. 献血者のデータから明らかになった HTLV-1 水平感染の実態. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会 8 月 24(日)会場: 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 24 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (口演)
- 30) 森内浩幸, 武田敬子, 土居 浩, 三浦清徳, 増崎英明, 柳原克紀, 上平憲, 「長崎県における HTLV-1 キャリア母体から生まれた児の追跡調査」, 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 24 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (口演)
- 31) Sanaz Firouzi, Tadanori Yamochi, Yosvany López, Yutaka Suzuki, Kenta Nakai, Sumio Sugano, Toshiki Watanabe, “A new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus integration sites”, 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 23 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (口演)
- 32) 中島誠, 矢持忠徳, 東原正明, 渡邊俊樹, 堀江良一, 「CD30 は HTLV-1 キャリアにおける異常リンパ球に発現し、核の形態変化に関与する」, 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 23 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (口演)
- 33) 中武彩子, 小林行治, 中畑新吾, 西片一朗, 岩永正子, 相良康子, 北中明, 天野正宏, 前田宏一, 末岡栄三朗, 瀬戸山充, 岡山昭彦, 宇都宮與, 下田和哉, 渡邊俊樹, 森下和広, 「血中可溶性 CADM1/TSLC1 測定による ATL 診断法の開発」, 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 23 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (口演)
- 34) 岩永正子, 早田みどり. 長崎県における ATL 罹患率の Age-Period-Cohort 解析: 1986~2010 年. 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 23 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (口演)
- 35) 武本重毅, 岩永正子, ポルンクナ ラティオン, 相良康子, 鶴澤耕治, 守田和樹, 渡邊俊樹, 「HTLV-1 キャリアの可溶性 CD30 血中濃度と成人 T 細胞白血病発症リスク: 症例対照研究」, 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 23 日 (2014 年 8 月 22 日-8 月 24 日) (ポスター)
- 36) 西田亜季, 長門石曉, 中野和民, 山岸誠, 矢持忠徳, 田中勇悦, 津本浩平, 渡邊俊樹, 「単鎖抗体(scFv)を用いた HTLV-1 感染細胞特異的 miRNA 輸送システムの構築」, 第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 東京大学医科学研究所, 2014 年 8 月 23

- 日 (2014年8月22日-8月24日) (ポスター)
- 37) 梅木一美, 橋倉悠輝, 山本成郎, 岡山昭彦. 高感度 PCR 法および Line Immunoassay による HTLV-1 抗体陽性の確認. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日 (2014年8月22日-8月24日) (口演)
- 38) 橋倉悠輝, 梅木一美, 山本成郎, 長谷川寛雄, 柳原克紀, 岡山昭彦. MT-2 細胞 HTLV-1 プロウイルスの組み込み部位および内部構造の多様性. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日 (2014年8月22日-8月24日) (ポスター)
- 39) 平野光人, 大野伸広, 小林誠一郎, 石垣知寛, 田野崎隆二, 鴨居功樹, 内丸 薫, 東條有伸. 急性型ATLとHTLV-1ぶどう膜炎の同時発症の1例. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日 (2014年8月22日-8月24日) (口演)
- 40) 石垣知寛, 小林誠一郎, 大野伸広, 中野伸亮, 宇都宮與, 山崎 聡, 渡辺信和, 東條有伸, 中内啓光, 内丸 薫. 急性型ATLにおける細胞表面抗原のクラスターリング解析とATL幹細胞マーカーの探索. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月24日 (2014年8月22日-8月24日) (口演)
- 41) 新野大介, 谷口広明, 今泉芳孝, 佐々木大介, 長谷川寛雄, 三好寛明, 郭英, 加藤文晴, 柳原克紀, 塚崎邦弘, 宮崎泰司, 大島孝一:成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)におけるMALT1発現と予後との関係. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日 (2014年8月22日-8月24日) (ポスター)
- 42) 岡村直香, 上田裕二郎, 根津雅彦, 湯浅博美, 伊藤國明, 石井源一郎, 塚崎邦弘:モガムリズムマブ2回目の点滴後に多形滲出性紅斑様の薬疹をきたした難治性ATLの一例. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、東京大学医科学研究所、2014年8月23日 (2014年8月22日-8月24日) (ポスター)
- 43) 山野嘉久, 木村美也子, 八木下尚子, 鈴木弘子, 石川美穂, 小池美佳子, 齊藤 祐美, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 高田礼子. HAM 患者登録システム「HAM ねっと」を用いた疫学的解析. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都 (港区) . (口演)
- 44) 佐藤知雄, 井上永介, 新谷奈津美, 高橋克典, 國友康夫, Ariella Coler-Reilly, 山内淳司, 八木下尚子, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の臨床的評価指標の有用性に関する検討. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都 (港区) . (口演)
- 45) 新谷奈津美, 佐藤知雄, 安藤仁, 外丸詩野, Ariella Coler-Reilly, 八木下尚子, 山内淳司, 長谷川温彦, 神奈木真理, 田中勇悦, 宇都宮與, 山野嘉久. HTLV-1 による HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) 病原性 T 細胞の発生機構の解析. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都 (港区) . (口演)
- 46) 八木下尚子, 有福厚孝, 菊池崇之, 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 石川美穂, 鈴木弘子, 小池美佳子, 齊藤祐美, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 木村美也子, 高田礼子, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM)患者登録システム「HAM ねっと」の患者満足度調査. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都 (港区) . (ポスター)
- 47) 山内淳司, 新谷奈津美, 安藤仁, 國友康夫, 高橋克典, Ariella Coler-Reilly, 八木下尚子, 佐藤知雄, 宇都宮與, 山野嘉久. HAM における抗 CCR4 抗体療法の有用性および CCR4+CD8+T 細胞の異常に関する検討. 第1回日本HTLV-1学会学術集会、2014年8月22日~24日、東京都 (港区) . (口演)
- 48) 遠藤寿子, 中島孝, 池田哲彦, 大田健太郎, 會田泉, 米持洋介, 山野嘉久. HAM の歩行不安定症に対する歩行改善プログラムに関する検討. 第1回日本 HTLV-1

- 学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区)。(口演)
- 49) 寺田裕紀子, 鴨居功樹, 山野ちなみ, 山野嘉久. HTLV-1 キャリアに合併した関節リウマチに対する生物学的製剤の使用で HTLV-1 ぶどう膜炎と HTLV-1 関連脊髄症が悪化した1例. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区)。(口演)
- 50) 石原誠人, 新谷奈津美, 佐藤知雄, 藤井理沙, 最知直美, 宇都宮與, 山野嘉久, 菅野純夫, 植田幸嗣. CD4 陽性 T 細胞を用いた膜プロテオーム解析による HTLV-1 関連脊髄症に対する新規治療標的分子の探索. 第1回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2014年8月22日~24日, 東京都(港区)。
- 51) 齋藤 滋: HTLV-1 母子感染対策協議会の役割と運営. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2014, 7, 14, 千葉。(招待講演)
- 52) 吉田稚明, 都築忍, 加留部謙之輔, 高原大志, 錦織桃子, 下山正徳, 大島孝一, 塚崎邦弘, 瀬戸加大: STX11はT細胞性腫瘍特異的ながん抑制遺伝子である. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日.(優秀演題口演)
- 53) 山田遥子, 根津雅彦, 岡村直香, 湯浅博美, 伊藤國明, 小嶋基寛, 石井源一郎, 塚崎邦弘. 致死的腫瘍崩壊症候群 (TLS)を来しM蛋白血症を伴うIgH/c-MAF 転座陽性の B細胞腫瘍の一例. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日.(ポスター)
- 54) 永井宏和, 小椋美知則, 塚崎邦弘, 上田龍三へ飛内賢正:再発・難治性の日本人末梢性 T 細胞リンパ腫(PTCL)患者を対象とするフォロデシンの第I/II相臨床試験. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日.(ポスタ)
- 55) 丸山大, 永井宏和, 前田嘉信, 塚崎邦弘, 上田龍三, 飛内賢正:再発・難治性の日本人末梢性 T 細胞リンパ腫(PTCL)患者を対象としたpralatrexateの第 I/II 相臨床試験. 第54回日本リンパ網内系学会, 山形, 2014年6月19~21日.(ポスター)
- 56) 築山尚文, 三浦清徳, 淵直樹, 長谷川寛雄, 柳原克紀, 森内浩幸, 増崎英明, 「HTLV-1 キャリア妊婦末梢血中および出生児臍帯血中のHTLV-1プロウイルス量およびHTLV-1抗体に関する検討」、第31回日本産婦人科感染症研究会学術集会、神戸国際会議場、神戸、2014年6月8日(2014年6月7日~8日) (口演)
- 57) 山野嘉久. HAM の炎症慢性化における astrocyte を介した炎症悪性ループの重要性. 第55回日本神経学会学術大会, 2014年5月21日~5月24日, 福岡県(福岡市).
- 58) 菊池崇之, 有福厚孝, 木村未祐奈, 佐藤健太郎, 本橋隆子, 木村美也子, 網中雅仁, 高田礼子, 八木下尚子, 山野嘉久. 患者 QOL の改善に向けた患者レジストリの満足度調査. 第55回日本神経学会学術大会, 2014年5月21日~5月24日, 福岡県(福岡市)。
- 59) 齋藤 滋: 血液・母乳を介した母子感染 (HTLV-1母子感染を中心に) . 第62回日本輸血・細胞治療学会総会; 2014.5.15~17, 奈良。(招待講演)
- (その他)
- 1) 渡邊俊樹、「HTLV-1 の病原性発現機構と ATL の発症機構」、第5回病原微生物部門セミナー、山口大学農学部、山口、2015年1月20日(招待講演)
- 2) 渡邊俊樹、「ATL 発症機構の解析に基づく発症予防・新規治療法の探索」、第13回さいたま血液勉強会、大日本住友製薬(株)主催、大日本住友製薬(株)埼玉支店、埼玉、2014年11月14日(招待講演)
- 3) Watanabe T, “Molecular mechanisms of leukemogenesis of adult T-cell leukemia (ATL) caused by HTLV-1”, 2d IARI Symposium, Lyon, France, Nov. 3 (Nov. 3-4), 2014
- 4) 渡邊俊樹、「ATL 発症機構の解析に基づく発症予防法と治療法の開発」、ATL 学術集会、協和発酵キリン(株)主催、盛岡グランドホテル、岩手、2014年10月9日(招待講演)
- 5) 齋藤愛記, 持田佳奈子, 鶴山恵理, 市川

裕菜、大友悠太郎、掛谷綾香、深澤麻純、宇野雅哉、徳永文稔、宇都宮與、渡邊俊樹、山岡昇司、「HTLV-I 感染細胞および上皮系腫瘍細胞においてユビキチン化修飾酵素 A20 は caspase-8 抑制因子として機能する」、新学術領域研究「修飾シグナル病」若手ワークショップ、東京、2014 年（2014 年 9 月 30 日～10 月 2 日）

- 6) 渡邊俊樹、「ATL の病態と発症に関わる分子機構解明の現状」、HTLV-1 セミナー、佐賀県地域医療再生計画事業主催、ホテルニューオータニ佐賀、佐賀、2014 年 7 月 4 日(招待講演)
- 7) 渡邊俊樹、「ATL 発症に伴う分子異常、そして難病への取り組み」、ATL シンポジウム—成人 T 細胞白血病(ATL)と原因ウイルス(HTLV-1)「ATL 細胞の培養から始まった HTLV-1 研究」、高知大学医学部主催、高新文化ホール・高知、2014 年 5 月 24 日(招待講演)
- 8) 渡邊俊樹、「ATL 発症とプログレッションの分子基盤解明の試み」、ATL small meeting、協和発酵キリン(株)主催、ホテルモントレー仙台、宮城、2014 年 4 月 18 日(招待講演)
- 9) 岡山昭彦, HTLV-1 感染症と慢性炎症性疾患. 京都大学ウイルス研究所セミナー. 2014.京都市
- 10) 齋藤 滋: 妊婦に対する HTLV-I 抗体検査の意義と目的 HTLV-I 母子感染予防対策～保健指導等について～. 福井県 HTLV-1 母子感染対策研修会; 2015.1.29, 福井. (招待講演)
- 11) 齋藤 滋: 富山県における協議会設置の経緯と現状. 平成26年度 HTLV-1 母子感染予防講習会; 2014.12.14, 東京.
- 12) 齋藤 滋: 妊婦に対する HTLV-1 抗体スクリーニング検査の意義と目的. 平成26年度 HTLV-1 母子感染予防講習会; 2014.12.14, 東京.
- 13) 齋藤 滋: HTLV-I スクリーニングの現状とその課題. 平成26年度 HTLV-I 研修会, 2014, 11, 19, 徳島. (招待講演)
- 14) 齋藤 滋: 妊婦母子感染対策事業から学

ぶこと～新しい HTLV-I 母子感染対策～. 石川県医師会 第1回周産期医療研修会, 2014, 7, 8, 石川. (招待講演)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

表1. 平成26年度 HTLV-1関連疾患研究領域 研究課題一覧表

研究事業	研究課題	研究代表	交付額 (千円)	期間
成育疾患克服等 次世代育成基盤研究	HTLV-1母子感染予防に関する研究:HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	板橋 家頭夫	15,000	平成26～28年度
新型インフルエンザ等 新興・再興感染症研究事業	HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1薬の探索および作用機序の解析	上野 孝治	6,500	平成24～26年度
	抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染モデルの開発とその有効性の検討	水上 拓郎	5,000	平成24～26年度
新興・再興感染症に対する革 新的医薬品等開発推進研究 事業	HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究	浜口 功	55,000	平成26年度
	HTLV-1感染疾患機序における自然免疫の役割解明と疾患リスク予知への応用	神奈木 真理	35,000	平成26年度
	HTLV-1感染症予防ワクチンの開発に関する研究	長谷川 秀樹	22,000	平成26年度
難治性疾患政策研究事業	HAM及びHTLV-1関連希少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめざした政策研究	出雲 周二	22,000	平成26～27年度
難治性疾患実用化研究事業	HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発	山野 嘉久	194,300	平成25～26年度
	希少性難治性疾患－神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究	中島 孝	256,800	平成24～26年度
	HAMに対する革新的な医薬品の開発促進に関する研究	山野 嘉久	40,000	平成26～28年度
	HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築	岡山 昭彦	29,900	平成26～28年度
	集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築	松田 文彦	149,500	平成26～28年度
がん対策推進総合研究(がん 政策研究)	HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究	内丸 薫	19,400	平成26～28年度
がん対策推進総合研究(革 新的がん医療実用化研究)	成人T細胞白血病の治療を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法:抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試験	末廣 陽子	154,483	平成25～27年度
	全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明	下田 和哉	29,900	平成26～28年度
	ATLの分子病態に基づく治療層別化のためのマーカー開発と分子標的の同定、および革新的マウス急性型ATL実験モデルを用いた臨床応用への展開	瀬戸 加大	29,900	平成26～28年度
	同種移植後再発の成人T細胞白血病リンパ腫に対する次世代型レトロウイルスベクターによるT細胞レセプター遺伝子導入ドナーリンパ球輸注療法	池田 裕明	78,650	平成26～27年度
革新的がん医療実用化研究 事業	臨床試験、発症ハイリスクコホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発	塚崎 邦弘	99,996	平成26～28年度
	成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	福田 隆浩	99,450	平成26～28年度
	成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対するNY-ESO-1+AS15ASCIのモガムリズマブ併用での安全性と有効性探索のための医師主導治験(第I/II相)	金倉 讓	199,992	平成26～28年度
	成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験	石塚 賢治	38,750	平成26～28年度



表2 平成26年度 HTLV-1関連疾患研究領域研究班合同発表会

研究事業	研究代表	所属	研究課題
成育疾患克服等次世代育成基盤研究	板橋 家頭夫	昭和大学医学部	HTLV-1母子感染予防に関する研究:HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	上野 孝治	関西医科大学医学部	HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1薬の探索および作用機序の解析
	水上 拓郎	国立感染症研究所村山分室	抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染モデルの開発とその有効性の検討
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	浜口 功	国立感染研究所	HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究
	長谷川 秀樹	国立感染症研究所	HTLV-1感染症予防ワクチンの開発に関する研究
	神奈木 真理	東京医科歯科大学	HTLV-1感染疾患機序における自然免疫の役割解明と疾患リスク予知への応用
難治性疾患政策研究事業	出雲 周二	鹿児島大学大学院	HAM及びHTLV-1関連希少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめざした政策研究
難治性疾患実用化研究事業	山野 嘉久	聖マリアンナ医科大学	HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発
	中島 孝	国立病院機構新潟病院	希少性難治性疾患－神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究
	山野 嘉久	聖マリアンナ医科大学	HAMIに対する革新的な医薬品の開発促進に関する研究
	岡山 昭彦	宮崎大学医学部	HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築
	松田 文彦	京都大学ゲノム医学センター	集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築
がん対策推進総合研究(がん政策研究)	内丸 薫	東京大学医科学研究所附属病院	HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究
がん対策推進総合研究(革新的がん医療実用化研究)	末廣 陽子	国立病院機構九州がんセンター	成人T細胞白血病の治療を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法:抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試験
	下田 和哉	宮崎大学医学部	全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明
	瀬戸 加大	久留米大学医学部	ATLの分子病態に基づく治療層別化のためのマーカー開発と分子標的の同定、および革新的マウス急性型ATL実験モデルを用いた臨床応用への展開
	池田 裕明	三重大学大学院	同種移植後再発の成人T細胞白血病リンパ腫に対する次世代型レトロウイルスベクターによるT細胞レセプター遺伝子導入ドナーリンパ球輸注療法
厚生労働科学研究委託費革新的がん医療実用化研究事業	塚崎 邦弘	国立がん研究センター東病院	臨床試験、発症ハイリスクコホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATL標準治療法の開発
	福田 隆浩	国立がん研究センター中央病院	成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究
	金倉 譲	大阪大学大学院医学系研究科	成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対するNY-ESO-1+AS15ASCIのモガムリズマブ併用での安全性と有効性探索のための医師主導治験(第I/II相)
	石塚 賢治	福岡大学	成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導治験

表 3. 新学術領域の中に含まれる研究課題

研究領域名	領域代表者	計画研究課題	研究代表または分担研究者	研究期間
「感染・炎症が加速する発がんスパイラルとその遮断に向けた制がんベクトル変換」	畠山 昌則	「ヒト T細胞白血病ウイルス1型による免疫系の破綻機構」	松岡 雅雄 (京都大学)	平成22年度～26年度
「システムの統合理解に基づくがんの先端的診断、治療、予防法の開発」	宮野 悟	「大規模ゲノムシーケンスに基づく癌の個性の理解と分子標的の探索」	小川 誠司 (東京大学→京都大学)	平成22年度～26年度
「がん研究分野の特性をふまえた支援活動」	今井 浩三	「がん疫学・予防支援活動 HTLV-I 分野」	分担研究者: 神奈木 真理、石田 高司、松岡 雅雄、山岡 昇司、田中 勇悦、渡邊 俊樹 * 別表参照	平成22年度～26年度

表 3. 別表：がん疫学・予防支援活動 HTLV-I 分野 分担研究者

神奈木 真理	東京医科歯科大学	ATLのリスク診断と発症予防の免疫研究、分野間の連携推進
石田 高司	名古屋市立大学	ATLに対する抗CCR4抗体治療
松岡 雅雄	京都大学	HTLV-I遺伝子による発がん機構研究
山岡 昇司	東京医科歯科大学	ATLにおけるNF- $\kappa$ B活性化機序に関する研究
田中 勇悦	琉球大学	HTLV-I抗原の定量キットの開発と宿主免疫応答の研究
渡邊 俊樹	東京大学	HTLV-I感染者の追跡調査とバイオマテリアルバンクの管理

表 4. 基盤研究(B)、(C)および特別研究員奨励費の研究課題

種類	分野	研究課題	研究代表者	研究期間
基盤研究(B)	血液内科学	ATL細胞の表現型の基盤となる量的・質的遺伝子発現異常の包括的解析	渡邊 俊樹(東京大学)	平成26年度～28年度
	病態医化学	HTLV-1感染防御機構破綻に伴うATL発症機構の解明	森下 和広(宮崎大学)	平成25年度～27年度
	血液内科学	HTLV-1bZIP factorによる炎症性関連疾患発症機構の解析	松岡 雅雄(京都大学)	平成25年度～27年度
基盤研究(C)	発がん	HTLV-1 Rexによる宿主NMDハイジャックと細胞腫瘍化との関わり	中野 和民(東京大学)	平成24年度～26年度
	ウイルス学	HTLV-1によるヒト慢性炎症形成機序の解明とその制御法の開発	齊藤 峰輝(琉球大学)	平成24年度～26年度
	ウイルス学	HTLV-1感染ヒト化マウスを用いたATL発症過程特異的細胞変異の同定	藤澤 順一(関西医科大学)	平成24年度～26年度
	ウイルス学	単鎖T細胞受容体とMHC-I単鎖三量体を用いたHTLV-1特異的癌治療法の開発	大橋 貴(北海道大学)	平成24年度～26年度
	疫学・予防医学	沖縄県におけるHTLV-1キャリア分布の解明および基盤データベースの構築	福島 卓也(琉球大学)	平成25年度～27年度
	血液内科学	ヒト化マウスを用いたATL腫瘍幹細胞の同定と機能解析	浜口 功(国立感染研)	平成24年度～26年度
	血液内科学	ATLヒト化マウスを用いた腫瘍化機構と新規同定癌幹細胞分画の解析による治療法開発	矢持 忠徳(東京大学)	平成24年度～26年度
	神経内科学	HAM動物モデルの作製と新規治療法開発	久保田 龍二(鹿児島大学)	平成24年度～26年度
	神経内科学	樹状細胞を介したHTLV-1感染モデルの構築と薬剤スクリーニングへの応用	竹之内 徳博(関西医科大学)	平成24年度～26年度
	神経内科学	HTLV-1関連脊髄症で同定した制御性T細胞由来異常T細胞の病原性に関する研究	佐藤 知(聖マリアンナ医科大学)	平成25年度～27年度
	神経内科学	HTLV-1関連脊髄症において新規に同定した病原性ヘルパーCD4+T細胞の解析	山野 嘉久(聖マリアンナ医科大学)	平成25年度～27年度
	眼科学	内眼炎発症に関連する遺伝子多型の解析と個別化医療への応用	中尾 久美子(鹿児島大学)	平成24年度～26年度
若手研究(B)	神経内科学	HAM高発症型HTLV-1を用いたHAM指向性決定機構の解析	上野 孝治(関西医科大学)	平成25年度～26年度
	産婦人科学	HTLV-1キャリア妊婦の血中ウイルス量と母子感染成立に関する研究	築山 尚史(長崎大学)	平成25年度～26年度
	眼科学	HTLV-1ぶどう膜炎における分子標的治療の開発	鴨居 功樹(東京医科歯科大学)	平成25年度～26年度
	神経内科学	制御性T細胞特異的レトロウイルス発現によるHAM免疫異常発症機構に関する研究	新谷 奈津美(聖マリアンナ医科大学)	平成24年度～26年度
	病態医化学	生体イメージングを用いた細胞接着分子CADM1のがん化における役割の解析+A1	櫻井 美佳(東京大学)	平成24年度～26年度
	感染症内科学	重度免疫不全マウスを用いたHTLV-1欠損プロウイルス生成メカニズムの解明	上野 史朗(宮崎大学)	平成24年度～26年度
特別研究員奨励費	ウイルス学	高速シーケンサーを用いたHTLV-1クローナリティー解析	フィルジ サナース(東京大学)	平成24年度～26年度

資料1 平成26年度 HTLV-1関連疾患研究領域研究課題オブザーバー評価一覧表

研究事業	研究課題	研究代表	所属	期間	班会議開催日程	進捗状況について	今後の展望について
成育疾患克服等次世代育成基盤研究	HTLV-1母子感染予防に関する研究： HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究	板橋 家頭夫	昭和大学医学部	平成26～28年度			
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究	HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1薬の探索および作用機序の解析	上野 孝治	関西医科大学医学部・助教	平成24～26年度			
	抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによるHTLV-1の革新的感染モデルの開発とその有効性の検討	水上 拓郎	国立感染症研究所村山分室	平成24～26年度			
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究	浜口 功	国立感染症研究所	平成26年度	11月8日(土) 宮崎大医学部		
	HTLV-1感染症予防ワクチンの開発に関する研究	長谷川 秀樹	国立感染症研究所	平成26年度	2月16日(月) 国立感染症研究所 戸山庁舎	感染阻止と発症予防を視野にれたワクチン開発のために、ウイルス抗原の準備が精力的に進められて、進展が見られる。ヒト化マウスを用いた感染予防ワクチンの検証も進んでいるが、さらなる実験が必要である。	実験室内の実験計画は妥当であり、進捗が期待できる。問題は、ワクチン効果の評価系であろう。実験動物を用いた評価系の構築は、こんなんではあるが実現可能性がある。一方、人を対象とした臨床試験は、対象者の選定やエンドポイントの設定に困難が予想される。キャリアコホートなどとの共同研究を構想して準備を進める必要がある。
	HTLV-1感染疾患機序における自然免疫の役割解明と疾患リスク予知への応用	神奈木 真理	東京医科歯科大学	平成26年度			
難治性疾患政策研究事業	HAM及びHTLV-1関連希少難治性炎症性疾患の実態調査に基づく診療指針作成と診療基盤の構築をめざした政策研究	出雲 周二	鹿児島大学大学院	平成26～27年度	出雲班/岡山班 合同班会議 12月5日(金) 鹿児島大医学部	HAMに関しては、髄液中の抗体測定法の検証、発症に関わる遺伝的背景の大規模解析、合併症と診療の独自のアルゴリズムの件等、ステロイドの有効性を検証する臨床研究の症例設計、などの取り組みが報告された。次世代シーケンサーを用いた発症の遺伝的要因の解析は成果が期待される。しかし、全体として、達成目標の明確化とそれを可能にする戦略の検討が必要と考えられる。「HTLV-1 関連希少難治性炎症性疾患の実態調査」に関しては、今回は糞線虫とぶどう膜炎の報告のみであった。呼吸器系疾患、シェーグレン症候群などに関する調査研究の進展に期待する。出雲班(政策研究)と岡山班(実用化研究)は、HTLV-1関連脊髄症(HAM)およびHTLV-1関連疾患を研究テーマとして、両班は協力しながら研究を進めている。また、HAMについては山野班とも連携をとっている。岡山班の研究結果から得られたエビデンスをもとに、出雲班では、HAM重症度分類、診療マニュアルや、HTLV-1関連ぶどう膜炎、シェーグレン症候群、関節リウマチ、糞線虫などの診療ガイドライン作成を目標としているが、症例集積と解析にやや手間取っている印象があり、十分な体系的エビデンスの創出にはなお年単位の期間を要するであろう。班員施設全体での症例集積体制や、検査技術の共有により効率の良い症例集積が可能になるものと思われる。	HAMに関する診療指針作成と診療基盤の構築を組織的に展開し、研究期間中に纏められることを期待する。しかし、「ガイドライン」とするに十分なエビデンスが得られるかどうかは不明であり、「診療の手引き」等の形でまとめることにならざるを得ないのではないか？ 関連希少疾患の実態調査の加速を期待する。 HAMについてはこれまでの知見の集積や臨床的特徴があり、また、他班での医師主導治験の進行や、ロボット支援を受けるなど、政策研究事業と実用化研究事業が効率的に進められている。一方、他のHTLV-1関連疾患については、臨床的特徴や臨床検査マーカーが示されておらず、診断および病態について未解決の課題がある。研究対象疾患、研究課題や班員には他研究班とのオーバーラップがあるので、研究組織のより効率的な構成が可能と思われる。 症例集積研究によるエビデンスを基盤に診療ガイドラインが作成されるため、その完成までにはなお時間を要すると思われる。正式なガイドラインとは別に、実診療の手引きになるような研究成果の提供を通して、順次、医療関係者からの評価を受けることも必要かもしれない。

研究事業	研究課題	研究代表	所属	期間	班会議開催日程	進捗状況について	今後の展望について
難治性疾患実用化研究事業	HAMの革新的な治療法となる抗CCR4抗体療法の実用化に向けた開発	山野 嘉久	聖マリアンナ医科大学	平成25～26年度	7月30日(水) ホテルグランドアーク半蔵門	<p>本研究班では、1) 治療抵抗性HAMに対する抗CCR4抗体療法の医師主導治験と2) HAM患者登録システムなどによる症例集積性向上と後ろ向き調査研究を行っている。1)については、明確な目標設定のもとに準備と計画を立てて、初年度をスタートしその11月から、抗CCR4抗体の医師主導Phase I/IIa治験が開始された。今年度は2年目に当たり、7月現在で12例のエントリーが得られている。これまでは、重篤なside-effectもなく、順調に進捗していると評価できる。2)については、病気の進行とそれに係わる因子を把握することを目的とした後ろ向き調査研究である。研究代表者が立ち上げた既存の「HAMねっこ」を基盤として、調査票を用いて患者から直接データを収集するシステムを構築し、これまでに、1年目を含む127例の患者データが集積されている。これまでに、ステロイドの有効性について解析がなされ、調査研究として十分成立しており、概ね順調に進捗していると評価できる。</p> <p>本研究班では主として2つの研究活動が行われ、5年計画研究の2年目に当たる進捗となる。会議では、研究代表者、分担者、および、HAMねっことデータシステム管理者からの進捗状況が報告された。</p> <p>1) 治療抵抗性HAMに対する抗CCR4抗体療法の医師主導治験 明確な目標設定のもとに周到な準備と計画がなされた上で1年目がスタートし、1年目の11月より抗CCR4抗体の医師主導Phase I/IIa治験が開始され、2年目に当たる本年度は、治験の継続が主体となるが、7月現在12例のエントリーがあり、慎重かつ着実に症例数を増やしており、これまでに重篤なside-effectもなく、順調に進捗していると評価できる。</p> <p>2) HAM患者登録システムなどによる症例集積性向上と後ろ向き調査研究 代表者らが数年前より立ち上げた既存の「HAMねっこ」を利用して、調査票を用いて患者から直接データを収集するシステムを構築し、病気の進行とそれに係わる因子を把握することを目的とした後ろ向き調査研究である。これまでに、1年目を含む127例の患者データが集積され、ステロイドの有効性について解析がなされ、調査研究として十分成立しており、概ね順調に進捗していると評価できる。</p>	<p>「抗CCR4抗体療法の医師主導治験」に関しては、目標症例数は18*33例としている。現状からすると、目標症例数の半分以上が本年度内にエントリー出来そうである。HAMに対する抗CCR4抗体の有効性と安全性について世界初の情報が得られると共に、非腫瘍性疾患への初の実用例として、得られる情報が大きな意味を持つと考えられる。</p> <p>「HAM患者登録システムなどによる症例集積性向上と後ろ向き調査研究」は、本年度も登録数の増加と追跡調査データの更新と集積が見込まれる。全国7施設との共同研究であるが、種々の付随研究への応用も可能と思われる。</p> <p>1) 抗CCR4抗体療法の医師主導治験 目標症例数は18*33例となっている。このまま順調に進めば、本年度内に目標症例数の半分以上の達成は十分見込まれる。今回の班会議では治験薬の効果についての発表はなかったが、HAMに対する抗CCR4抗体の有効性と安全性について世界初の情報が得られることが期待される。</p> <p>2) HAM患者登録システムなどによる症例集積性向上と後ろ向き調査研究 本年度も登録数の増加と追跡調査データの更新と集積が見込まれる。全国7施設との共同研究と併せて、構築したデータベースを利用して、複数の付随研究も可能と思われるので、7施設の共同研究者とともに研究目的を明確にしたデータ収集に努めていただきたい。</p>
					1月22日(木) 都市センターホテル(永田町)	<p>この班会議は、会議名にあるように神経免疫疾患の研究班の合同班会議であり、HAM関連の2研究班は研究代表者が同一であるため、研究代表者山野博士によるこれらの班の研究目的と方法、成果の概要の紹介に引き続き、分担研究者の個別研究の成果と進捗状況の報告が行われた。</p> <p>代表者による進捗状況の説明では、概ね順調に進捗しているとの評価ができた。分担研究者の個別の研究テーマの進捗は、様々な段階にあると考えられた。</p> <p>二ホンザルを用いた抗CCR4抗体の有効性と作用機序の解析は、費用などの関係から数に制限があり結果の一般性の評価が課題であると考えられた。プロテオーム解析による成果は期待できる。HAMの免疫病態の解析、ウイルス側の因子の解析など、興味ある研究が進められているが、今後の展開に期待する。歩行改善プログラムは有益な情報が得られている。</p>	<p>各研究班の課題に即した主目標の達成に関してはほぼ順調に進捗すると思われる。個別研究については、それぞれの実験系によって、進捗状況とエビデンスレベルにはばらつきが認められる。</p>
		希少性難治性疾患—神経・筋難病疾患の進行抑制治療効果を得るための新たな医療機器、生体電位等で随意コントロールされた下肢装着型補助ロボット(HAL-HN01)に関する医師主導治験の実施研究	中島 孝	国立病院機構新潟病院	平成24～26年度	1月31日(土) 東京国際フォーラムホール	<p>日本のロボット技術を結集したロボットスーツ「HAL」をもとに、神経・筋障害患者用に開発された「HAL-HN01」を医療機器として利用する臨床試験が着実に進んでいる。主任研究者の強いリーダーシップと明確な研究目標のもと、臨床試験NCY-3001は、昨年8月にデータ収集を完了して、そのデータをCSRとしてまとめ、PMDAへ申請段階にあると報告された。HAM患者を対象としたNCY-2001臨床試験は、予定症例40例中、11例のエントリーがあり、順調に進行している。多職種の実験員が連携して開発に従事しており、医学的データに加えて、患者視点をエンドポイントに目標設定している点も高く評価できる。</p> <p>NCY-3001試験・NCY-2001試験ともに、研究代表者のリーダーシップおよびプロジェクトマネジメント能力が非常に優れており、海外医療施設との連携・情報交換も密に行われ、研究のロードマップ上でも実用化までの計画・目標設定も明確である。さらに対象疾患を拡大したNCY-4001試験・NCY-5001試験も計画されている。現在、HALの臨床応用研究はドイツが先行しているが、本研究班によって、日本からの世界をリードする臨床応用の成果とさらなる発展が達成されるものと大いに期待できる。</p>

研究事業	研究課題	研究代表	所属	期間	班会議開催日程	進捗状況について	今後の展望について
難治性疾患実用化研究事業	HAMに対する革新的な医薬品の開発促進に関する研究	山野 嘉久	聖マリアンナ医科大学	平成26～28年度	7月30日(水) ホテルグランドアーク半蔵門	PMDAからの依頼に基づく委託研究である。HAMの確実な治療効果判定のための臨床的評価指標と薬理学的評価指標(主としてバイオマーカー)を開発する目的で、本年度より開始された、「多施設共同前向き研究」である。 班会議は、厚労省疾病対策課・国立保健医療科学院からのご挨拶と、研究代表者による研究活動の全体像の説明に引き続き、非常に綿密な研究計画と実施マニュアルが公表された。説明によれば、実施準備は順調に進捗していると判断される。 PMDAから依頼があり、HAMの確実な治療効果判定のための臨床的評価指標と薬理学的評価指標(主としてバイオマーカー)を開発する目的で、本年度より開始された委託研究である。研究デザインは多施設共同前向き研究である。 会議では、厚労省疾病対策課・国立保健医療科学院からのご挨拶と、研究代表者による研究活動の全体像の説明があり、その後、非常に綿密な研究計画と実施マニュアルが公表され、実施準備は順調に進捗していると判断される。ただし、必要症例数見積もりが20数例という点と、個人名記載のある調査票については、やや疑問が残った。	下記の理由から、今年度末までには、ある程度の症例登録が認められると期待される。準備状況としては、本班会議までに、既に研究計画と実施マニュアルは完成していること、症例エントリーは代表者らの既存の「HAMねっと」を利用するので、研究体制も整っていること、などの理由である。 本会議の段階で既に研究計画と実施マニュアルは完成しており、症例エントリーは代表者らの既存の「HAMねっと」を利用するので、研究体制も整っているため、共同研究施設の倫理委員申請にかかる時間を考慮に入れても、今年度末にはある程度の症例登録が見込まれるものと期待できる。
					1月22日(木) 都市センターホテル(永田町)	この班会議は、会議名にあるように神経免疫疾患の研究班の合同班会議であり、HAM関連の2研究班は研究代表者が同一であるため、研究代表者山野博士によるこれらの班の研究目的と方法、成果の概要の紹介に引き続き、分担研究者の個別研究の成果と進捗状況の報告が行われた。 代表者による進捗状況の説明では、概ね順調に進捗しているとの評価ができた。分担研究者の個別の研究テーマの進捗は、様々な段階にあると考えられた。 ニホンザルを用いた抗CCR4抗体の有効性と作用機序の解析は、費用などの関係から数に制限があり結果の一般性の評価が課題であると考えられた。プロテオーム解析による成果は期待できる。HAMの免疫病態の解析、ウイルス側の因子の解析など、興味ある研究が進められているが、今後の展開に期待する。歩行改善プログラムは有益な情報が得られている。	各研究班の課題に即した主目標の達成に関してはほぼ順調に進捗すると思われる。個別研究については、それぞれの実験系によって、進捗状況とエビデンスレベルにはばらつきが認められる。
	HTLV-1陽性難治性疾患の診療の質を高めるためのエビデンス構築	岡山 昭彦	宮崎大学医学部	平成26～28年度	出雲班/岡山班 合同班会議 12月5日(金) 鹿児島大医学部	岡山班(実用化研究)は、出雲班(政策研究)とHTLV-1関連脊髄症(HAM)およびHTLV-1関連疾患を研究テーマとして、連携しつつ研究を進めている。また、HAMについては分科会として山野班とも連携している。岡山班ではHTLV-1関連ぶどう膜炎、シェーグレン症候群、関節リウマチ、糞線虫、筋炎などHTLV-1との関連が疑われている慢性炎症性疾患の症例集積を実施しているが、多分野の班員が参画しているためか、症例集積とエビデンス創出にやや手間取っている印象がある。HAMを除いて、HTLV-1関連疾患としての疾患概念、診断基準や診断的検査など未解明の部分が多い。	HAMについてはこれまでの知見の集積や臨床的特徴があり、また、山野班での医師主導治験の進行や、ロボット支援システムなど実用化研究事業が進められている。一方、その他のHTLV-1関連疾患については、臨床的特徴や臨床検査マーカーが示されておらず、関連疾患としての位置づけの科学的根拠を示すことが望まれる。 症例集積には時間を要することから、エビデンス創出から診療ガイドライン作成まで2、3年をかける研究計画であり、政策研究成果(出雲班)としての診療ガイドライン完成までにはなお年単位の期間を要するであろう。
	集約的オミックス解析による難病の原因究明と疾患別遺伝子診断ネットワークの構築	松田 文彦	京都大学ゲノム医学センター	平成26～28年度	2月24日(火) 京都大学医学部病院		
がん対策推進総合研究(がん政策研究)	HTLV-1キャリアとATL患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備とATL/HTLV-1感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究	内丸 薫	東京大学医学部研究所 附属病院	平成26～28年度	5月27日(火) 東大医科研		
					12月16日(火) 東大医科研		

研究事業	研究課題	研究代表	所属	期間	班会議開催日程	進捗状況について	今後の展望について
がん対策推進総合研究 (革新的がん医療実用化研究)	成人T細胞白血病の治療を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法:抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試験	末廣 陽子	独立行政法人国立病院機構九州がんセンター	平成25~27年度	12月26日(金) 福岡センタービル	医師主導臨床試験に必要な様々な取り組みを精力的に行い、今年度中に臨床試験開始が可能な状況までたどり着いていることは高く評価できる。 末廣班長より、抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法に関する困難な一連の手続きが終了し、試験届が12月に受理されたことが報告された。研究班班員および末廣班長の非常なる努力のためのものであると高く評価できる。そのほか関連する副次的評価項目についても順調に検討が進んでいると思われた。 本研究のProto-typeの論文がBr J Hematolに掲載されており、また、試験も開始できる状況になってきている点は評価できる。なお、一部委員から本研究の対象症例としてtax変異例、tax陽性例にすべきという意見もあったが、寛解例も含め再発予防するという場合も想定しtax陰性でもよいとの考え方から、taxの発現をinclusion criteriaに入れていないとのことであった。本研究に組み入れられた症例についてはtaxに関して精査が必要であることは言うまでもない。	1.医師主導臨床試験の準備は整っており、順次、患者数が増加し順調に臨床研究が進むことを期待できる。 2. 分担研究者の課題の位置付けが、本体の医師主導臨床試験とどのようにかあり合うかがわかりにくい。 年度内にも1例目の試験が開始できる見通しであり、試験を進めながら治療法および評価法の修正を同時に行う予定であるが、ATLに対する細胞療法の画期的な治療であり、その成果には大きな期待ができる。 当初の予定よりは試験の開始がやや遅れているが、今後は順調に推移することが期待される。
	全例登録を基盤とした臨床情報と遺伝子情報の融合によるATLL予後予測モデル、発症前診断の開発と、ATLLクローン進化機序の解明	下田 和哉	宮崎大学医学部	平成26~28年度	3月20日(金) 国立がん研究センター		
	ATLの分子病態に基づく治療層別化のためのマーカー開発と分子標的の同定、および革新的マウス急性型ATL実験モデルを用いた臨床応用への展開	瀬戸 加大	久留米大学医学部	平成26~28年度	9月5日(金) 久留米大医学部		
	同種移植後再発の成人T細胞白血病リンパ腫に対する次世代型レトロウイルスベクターによるT細胞レセプター遺伝子導入ドナーリンパ球輸注療法	池田 裕明	三重大学大学院	平成26~27年度			
厚生労働科学研究委託費 革新的がん医療実用化研究事業	臨床試験、発症ハイリスクコホート、ゲノム解析を統合したアプローチによるATLL標準治療法の開発	塚崎 邦弘	国立がん研究センター 東病院	平成26~28年度	10月23日(木) フクラシア東京ステーション(大手町)		
	成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	平成26~28年度	11月15日(土) 東京大学医科学研究所	進行期ATLに対して、同種造血幹細胞移植療法を標準治療として組み入れるにあたり、移植療法を適正かつ可及的に安全に実行すべく、多施設共同で後方視的検討に加えて、前向きコホート調査の組織編成と倫理審査が進められている。移植片のソース、移植タイミングや前処置法、予期される合併症に対する治療法など多方面からの解析が多施設共同で研究が進められている。それに加えて、基礎研究者の共同参加によって、ATL細胞のモニタリング、クローン解析や再発・難治症例の検討が進められ、基礎と臨床の橋渡し研究がうまく連携している。	本研究は、全国の血液腫瘍専門家が綿密な治療計画に基づき、医療機関を超えた協力体制によって高度な医療を提供している。さらに、基礎医学者の研究参加によって、最先端の技術を導入して貴重な生体試料の解析に取り組んでいる。ATLを発症した進行期患者にとり、実用的かつ有用な治療法が科学的根拠をもって示されると期待できる。貴重な生体試料の解析が同時に進められており、高いレベルの学術的成果が期待される。
	成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対するNY-ESO-1+AS15ASCIのモガムリズマブ併用での安全性と有効性探索のための医師主導試験(第I/II相)	金倉 謙	大阪大学大学院医学系研究科	平成26~28年度	12月19日(金) 大阪大学最先端イノベーションセンター	医師主導試験としての計画が元になっているはずであるが、具体的な試験計画の確定が遅い印象がある。 班会議で問題点の整理を行い、試験の開始に至るものと思われる。予定症例数を20例と減少させることで実現可能性が増しているかどうか不明。 本研究は、「抗CCR4抗体薬であるモガリズマム」と「がん・精巢抗原NY-ESO-1にAS15ASCIアジュバントを加えたワクチン製剤」とを併用した治療方法が、治療抵抗性ATLに対して安全に投与でき、モガリズマム単独治療よりも無増悪生存期間を改善するかどうかを評価しようとする第I/II相医師主導試験である。 班員構成は、臨床医のみならず、基礎研究者もバランスよく構成され、基礎と臨床の橋渡し研究体制が整っていると思われる。 ただし、すでに試験実施計画書が完成し、PMDAにコンサルトしながら準備を進めているという説明があったものの、エンドポイント・患者選択基準・症例数設計など基本的かつ重要な実施計画部分において、研究班内で合意・意見調整が得られておらず、実施準備はやや遅れていると言わざるを得ない。	モガムリズマブ併用NY-ESO-1+AS15ASCI療法の安全性と有効性が認められれば、世界初のがんワクチン・制御除去併用がん免疫療法となることが期待される。そのためにも、慎重な手順での試験が望まれる。 今回の会議において、研究班内で合意が得られていない実施計画部分については、今後どのように班員間の意見調整を行うか、連絡方法などについても議論されたので、今後の実施準備の進捗を期待する。
成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)に対する新規治療を開発する医師主導試験	石塚 賢治	福岡大学	平成26~28年度	10月18日(土) 3月14日(土) アクロス福岡			



# 第1回 日本HTLV-1学会 学術集会

東京大学医科学研究所1号館講堂

東京都港区白金台4-6-1

Aug  
22  
Fri

Aug  
23  
Sat

Aug  
24  
Sun

Aug  
22  
Fri

## HTLV-I International Symposium

The Current Status of HTLV-I infection and associated diseases in Asia 16:00 - 18:10

Aug  
23  
Sat

## Young Investigator Award Presentation 9:00 - 10:05

Session 1 ATL臨床 10:05 - 11:05

ポスターフラッシュトーク 11:05 - 11:45

特別講演 **ロボットスーツHAL** 13:30 - 14:30  
山海嘉之 筑波大学大学院

Session 2 HTLV-1関連疾患(HAM・HU等) 14:30 - 15:30

Session 3 臨床検査・バイオマーカー 15:30 - 16:20

Session 4 疫学 16:20 - 17:20

Aug  
24  
Sun

Session 5 ウイルス学・分子病態 9:00 - 10:00

Session 6 免疫及びモデル動物 10:00 - 11:00

Session 7 新規診断・治療の探索 11:00 - 12:00

Session 8 感染とキャリア支援 13:00 - 14:00

特別講演 **HTLV-1総合対策の概略と現状** (仮題) 14:15 - 14:35

公開シンポジウム **HTLV-1キャリア対策の充実に向けて**  
～他の感染症対策に学ぶ 14:35 - 16:30

基調講演 HTLV-1キャリア相談体制の現状

行政の立場から 東京都のHTLV-1相談対応の現状

HIV相談対応の現状

HBVに対する相談体制の現状

<http://htlv.umin.jp> 詳細はHPをごらんください

事務局  
連絡先

東京大学大学院新領域創成科学研究科  
メディカルゲノム専攻病態医療科学分野  
渡邊 俊樹  
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1  
TEL:03-5449-5298 FAX:03-5449-5418  
E-mail: htlv@mos-jp.com

運営  
事務局

第1回日本HTLV-1学会学術集会 運営事務局  
(株)ICSコンベンションデザイン内 担当:高橋、阿部  
〒101-8449 東京都千代田区猿樂町1-5-18 千代田ビル  
TEL:03-3219-3541 FAX:03-3219-3577  
E-mail: htlv-1@ics-inc.co.jp

# 8月22日(金) HTLV-1 国際シンポジウム

16:00-18:10

## The Current Status of HTLV-1 infection and associated diseases in Asia

Chairman :Kazunari Yamaguchi, Masahiro Satake

### Opening Remarks

**Toshiki Watanabe**

University of Tokyo

### Current status of HTLV screening in Korean blood donors.....16

**Jae-won Kang, Jin-Hyuk Yang, So-Yong Kwon**

Blood Transfusion Research Institute Korean Red Cross

### The prevalence of human T-lymphotropic virus infection among blood donors in southeast China, 2004-2013 .....17

**Zhang Ya-Li, Chen Chang-rong**

Xiamen Blood Center, Fujian Province, China

### The Current Status of HTLV-1 Infection in Taiwan .....18

**Bai Hsiun Chen M.D., FCAP**

Department of Laboratory Medicine, College of Medicine, Kaohsiung Medical University, Kaohsiung, Taiwan

### The Current Status of HTLV-1 Infection in Japan .....19

**Masahiro Satake**

Japanese Red Cross Central Blood Institute

### Closing Remarks

**Kunihiro Tsukasaki**

National Cancer Center

Co-organized by Health and Labour Sciences Research Grants (Research for Promotion of Cancer Control Programmes), Ministry of Health Labour and Welfare, Japan (H26-Policy Research for Cancer-General-006)

Sponsored by HUYÀ Bioscience International

# 8月23日(土) 第1回日本HTLV-1学会学術集会

9:00-9:05

## 会長挨拶

日本HTLV-1学会設立と第1回学術集会開催について  
渡邊 俊樹 (東京大学大学院)

9:05-10:05

## Young Investigator Award (YIA) Presentation

座長：渡邊 俊樹、出雲 周二

- O-1 ヒト化マウスを用いたHTLV-1感染防御ワクチンの開発.....26  
田中 正和<sup>1)</sup>、李 成一<sup>2)</sup>、荀 潤沢<sup>1)</sup>、姚 錦春<sup>1)</sup>、藤澤 順一<sup>1)</sup>  
1) 関西医科大学、微生物学講座  
2) 関西医科大学、生命医学研究所
- O-2 HTLV-1によるTh1-like CD4<sup>+</sup>CCR4<sup>+</sup>T細胞の発生機構の解析.....26  
新谷 奈津美<sup>1)</sup>、佐藤 知雄<sup>1)</sup>、安藤 仁<sup>1)</sup>、外丸 詩野<sup>2)</sup>、Ariella Coler-Reilly<sup>1)</sup>、八木下 尚子<sup>1)</sup>、山内 淳司<sup>1)</sup>、  
長谷川 温彦<sup>3)</sup>、神奈木 真理<sup>3)</sup>、田中 勇悦<sup>4)</sup>、宇都宮 與<sup>5)</sup>、山野 嘉久<sup>1)</sup>  
1) 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター病因病態解析部門  
2) 北海道大学大学院医学研究科分子病理学分野  
3) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科免疫治療学分野  
4) 琉球大学大学院 免疫学講座  
5) 公益財団法人慈愛会今村病院分院
- O-3 A new high-throughput method to investigate the clonality of HTLV-1-infected cells based on provirus  
integration sites.....27  
Sanaz Firouzi<sup>1)</sup>, Tadanori Yamochi<sup>1)</sup>, Yosvany López<sup>2)</sup>, Yutaka Suzuki<sup>2)</sup>, Kenta Nakai<sup>3)</sup>,  
Sumio Sugano<sup>1)</sup>, Toshiki Watanabe<sup>1)</sup>  
1) Department of Medical Genome Science, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo  
2) Department of Computational Biology, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo  
3) Human Genome Center, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo
- O-4 成人T細胞白血病(ATL)に対する核酸系逆転写酵素阻害薬Abacavirの抗腫瘍効果と作用機序.....27  
小林 正行<sup>1)</sup>、多田 浩平<sup>1)</sup>、瀧内 曜子<sup>1)</sup>、岩井 文絵<sup>1)</sup>、菱澤 方勝<sup>1)</sup>、白川 康太郎<sup>1)</sup>、新堂 啓祐<sup>1)</sup>、武田 俊一<sup>2)</sup>、  
高折 晃史<sup>1)</sup>  
1) 京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学  
2) 京都大学大学院医学研究科 放射線遺伝学

10:05-11:05

## Session 1 ATL 臨床

座長：宇都宮 與、石塚 賢治

- O-5 染色体異常が成人T細胞白血病/リンパ腫に対する同種移植の成績に及ぼす影響.....28  
中野 伸亮、糸山 貴浩、窪田 歩、徳永 雅仁、徳永 真弓、牧野 虎彦、竹内 昇吾、高塚 祥芝、宇都宮 與  
公益財団法人慈愛会 今村病院分院 血液内科
- O-6 ATLに対する臍帯血移植後のATL細胞と免疫細胞の12カラーFACS解析.....28  
渡辺 信和<sup>1)</sup>、佐藤 奈津子<sup>1,2)</sup>、渡辺 恵理<sup>1)</sup>、崔 日承<sup>3)</sup>、鶴池 直邦<sup>3)</sup>  
1) 東京大学医科学研究所 臨床FACSコアラボ  
2) 株式会社LSIメディエンス  
3) 九州がんセンター 血液内科

O-7	成人T細胞白血病リンパ腫（ATL）における同種造血幹細胞移植後再発の後方視的検討 .....29 井上 明威 <sup>1)</sup> 、藤 重夫 <sup>1)</sup> 、稲本 賢弘 <sup>1)</sup> 、田野崎 隆二 <sup>2)</sup> 、田島 絹子 <sup>1)</sup> 、沖中 敬二 <sup>1)</sup> 、黒澤 彩子 <sup>1)</sup> 、金 成元 <sup>1)</sup> 、 山下 卓也 <sup>1)</sup> 、福田 隆浩 <sup>1)</sup> 1) 国立がん研究センター 中央病院 造血幹細胞移植科 2) 国立がん研究センター 中央病院 輸血療法科
O-8	ATL患者に対するモガムリズマブ投与後の皮膚障害の検討 .....29 米倉 健太郎 <sup>1)</sup> 、徳永 雅仁 <sup>2)</sup> 、川上 延代 <sup>1)</sup> 、武田 浩一郎 <sup>1)</sup> 、神崎 保 <sup>1)</sup> 、高塚 祥芝 <sup>2)</sup> 、中野 伸亮 <sup>2)</sup> 、窪田 歩 <sup>2)</sup> 、 竹内 昇吾 <sup>2)</sup> 、宇都宮 與 <sup>2)</sup> 1) 今村病院分院 皮膚科 2) 今村病院分院 血液内科
O-9	CD30は HTLV-1 キャリアにおける異常リンパ球に発現し、核の形態変化に関与する .....30 中島 誠 <sup>1,2)</sup> 、矢持 忠徳 <sup>2)</sup> 、東原 正明 <sup>1)</sup> 、渡邊 俊樹 <sup>2)</sup> 、堀江 良一 <sup>1)</sup> 1) 北里大学医学部血液内科 2) 東京大学新領域創成科学研究科
O-10	ATLに対する樹状細胞療法後のATL細胞と免疫細胞動態のマルチカラー FACS 解析 .....30 渡辺 恵理 <sup>1)</sup> 、佐藤 奈津子 <sup>1,2)</sup> 、渡辺 信和 <sup>1)</sup> 、末廣 陽子 <sup>3)</sup> 、鵜池 直邦 <sup>3)</sup> 1) 東京大学医科学研究所 臨床FACS コアラボ 2) 株式会社 LSI メディエンス 3) 九州がんセンター 血液内科

11:05-11:45

ポスター発表 フラッシュトーク

11:45-12:00

YIA 授賞式

12:00-12:30

日本 HTLV-1 学会 社員総会

12:30-13:30

昼食およびポスターセッション（共催：株式会社コスミックコーポレーション）